

2022年度 第1回 JSSR プロジェクト委員会 議事録

日時:2022年4月5日(火) 19時から19時30分 (Web開催)

(参加者、敬称略):

担当理事:山田宏、委員長:海渡貴司

委員:井上玄、今釜史郎、今城靖明、折田純久、高畑雅彦、八木満、森幹士、若尾典充、宮崎正志、室谷健太、大和雄、後藤励、寺井秀富、宮腰尚久、渡邊慶、吉井俊貴、酒井紀典
オブザーバー: 松山幸弘理事長、手束文威、伊藤研悠

欠席: 金村徳相、岡敬之

議題

1) ご挨拶 松山幸弘理事長

学会プロジェクト研究は、国民健康度を改善するエビデンスを創出するという大きな意義を有しており、学会としても多方面からサポートを行う。次期理事長による運営においても、この方針に変わりはない。

2) 各プロジェクト事務局から 経過報告・目標到達への課題

「頸椎由来の頸肩腕症状に対する薬物治療の臨床経済研究」(若尾典充委員)

症例登録は過去12ヵ月で200症例以上増加している。2022年7月のエントリー終了まで継続して登録を依頼し、データ収集・最終解析へと進める方針である。

「Meyerding 1度腰椎変性すべり症に対する除圧術と後方椎体間固定術の費用対効果に関する検討」(八木満委員)

症例登録は順調であり、エントリー開始2年で目標症例数に到達する予定である。その時点で後藤先生に医療経済的な面からの必要症例数を再検討いただき、必要に応じて登録症例数を増やすことも検討している。

「成人脊柱変形患者に対する脊椎矯正手術の費用対効果の検討」(大和雄委員)

COVID19感染拡大によるICU使用制限等の影響で症例登録が伸び悩んでいるが、COVID鎮静化とともに症例登録数が増加することが期待できる。各施設においては、登録もれがないようお願いしたい。登録後1年が経過する症例には、費用系データ収集に関する連絡を随時行う予定である。

「成人脊柱変形(腰曲がり)に対する保存治療の費用対効果研究」(長田圭司委員)

3年の登録期間の1年が経過し、目標の1/3が登録されている。各施設で保存的に見ている症例には限界があり、除圧手術を受ける症例で脊柱変形を合併している例を登録すること、新規施設追加を行うことを予定している。

「腰曲がりに対する運動療法のエビデンス創出に関する研究」(寺井秀富委員)

目標症例登録数に到達しているが、予定通り 2 年間のエントリーを継続する。エントリー後 6 ヶ月以上経過した症例が増加してきており、時期をみて中間報告を行うことも検討している。

「腰椎疾患に対する神経根ブロック療法の有用性ならびに費用対効果に関する検討」
(井上玄委員)

大学病院での単椎間腰椎疾患に対する治療目的神経根ブロックが少ないことが、症例登録の伸び悩みに関係している。現在のペースでの目標症例数達成は難しく、症例登録促進への対策が必要である。

3) 総括 山田宏担当理事

研究の発案・実際の開始に至った経緯からお話をいただき、2 年間のプロジェクト委員会活動を総括いただいた。

4) 次回 新委員会メンバーにより決定